

日本臨床検査医学会 平成 21 年度 第 1 回  
臨床検査専門医・管理医 審議会 だより

日 時：平成 21 年 5 月 30 日(土)10:30~11:30

場 所：日本臨床検査医学会 事務所

出席者：宮澤幸久, 高橋伯夫, 松野一彦,  
高木 康, 土屋達行, 村田 満,  
佐藤尚武 各委員(7名)

欠席者：渡邊 卓, 水口國雄 各委員(2名)

委員長挨拶(宮澤幸久 委員長)

宮澤幸久委員長より開会の宣言があり議事は進行  
された。

#### 【報告事項】

#### 1. 研修施設・指導者認定委員会報告

(松野一彦 研修施設・指導者認定 委員長)

2009年7月1日付再認定施設審査結果について  
保留後の再認定申請が5施設, 通常の再認定申請  
が6施設あり, 松野委員長から説明があった。

- ・宮崎大学, 燕労災病院は組織図がないが, 後日  
提出していただく。
- ・埼玉医科大学総合医療センターは発表リストで  
の発表がないため, 指導責任医に確認する。認定  
証は発行せず, 「保留」とする。
- ・指導責任医または指導担当者が「兼任」とされ  
た大学については「専任」であるかを確認する。

#### 2. 平成 21 年度臨床検査専門医受験者の受験資格に ついて(土屋達行 受験・更新資格審査 委員長)

- ・初回受験者は18名(基本型:2名(臨床医学選択),  
他領域の専門医資格:16名)
- ・検査室での勤務実態・活動実績についてのレポ  
ート提出がない。
- ・受験資格の概要での B. については, 資格審査  
委員会で審議していただく。
- ・報告書一覧表での\*\*この場合であっても・・・  
希望します。の「希望します」の表現を変更す  
るように委員会にお願いする。

#### 3. その他

特になし。

#### 【審議事項】

#### 1. 第 26 回臨床検査専門医認定試験について

(村田 満 試験実行委員長)

実行委員(案)が提出され, 承認された。

・第 1 回試験委員会の議事録が説明され, 実技試験  
委員と筆記試験作成委員はできるだけセミナーに関  
与しないことを確認した。

#### 2. 臨床検査管理医講習開催, 認定試験要領, 管理 医規定について(高木康 試験委員長)

管理医試験受験資格, 願書について

認定医・専門医資格を必要とするか。

日本専門医制評価・認定機構の加盟学会の専門医,  
認定医(内科学会, 外科学会の認定医), 産業医, を  
受験資格の条件としてはいかがか。

実務経験などについての付加事項については受  
験・更新資格審査委員会で討議して頂く。

今年度は, 現時点の管理医制度規定の受験資格に  
順ずる。

#### 専門医および管理医規定への追加事項

(高木康試験委員長)

・臨床検査管理医規定に, 臨床検査専門医は申請に  
より臨床検査管理医資格を取得できること, 認定更  
新は専門医の認定更新の際に自動更新となり管理医  
の更新料は不要であることを付け加えることにつ  
いて承認された。

#### 臨床検査管理医試験実行委員会委員について

(宮澤幸久 委員長)

委員長としては審議会委員長の宮澤幸久先生, 委  
員6名は承認された。

#### 3. 専門医更新単位での関連学会(日本睡眠学会)に ついて(宮澤幸久 委員長)

・本会の臨床検査専門医認定更新の際の単位取得の  
関連学会として承認された。

#### 4. 歯科医師の受験資格について(土屋達行 委員長)

・歯科医師の先生から臨床検査専門医認定試験の受  
験資格の有無について問合せがあったことについて  
検討したが, 本受験資格としては「日本国の医師免  
許証を有し, ...」とあるため, 歯科医師には受  
験資格はなしとなった。

#### 5. その他

臨床検査専門医・管理医審議会日程

第2回: 平成 21 年 8 月 8 日(土)10:30~11:30

第3回: 平成 21 年 12 月 19 日(土)11:00~12:00

日本臨床検査医学会

平成 21 年度 第 2 回理事会(理事総会)日より

日 時：平成 21 年 5 月 30 日(土)12:00~16:00

場 所：日本臨床検査医学会事務所

出席者：宮澤幸久理事長，高橋伯夫副理事長，  
高木 康総務理事，玉井誠一会計理事，  
米山彰子庶務理事，矢富 裕，諏訪部章，  
福武勝幸，松野一彦，登 勉，村田 満，  
荏原順一，小出典男，山根誠久 各理事  
戸谷誠之，中原一彦 各監事  
池田齊，佐藤尚武，藤橋和夫，磯部和正  
各関連団体連絡委員

欠席者：熊谷俊一，石 和久，宮地勇人，  
三家登喜夫 各監事

会に先立ち，評議員の深津俊明先生(55 歳)(平成 21 年 5 月 10 日ご逝去)を悼んで黙祷が行われた。その後，宮澤幸久理事長から挨拶があり，松野一彦 理事，荏原順一 理事を議事録署名人に定めて，理事会の議事が進められた。

【報告事項】

1. 支部報告

各支部の支部例会，支部総会の開催報告・予定，支部役員などについて報告がなされた。松野一彦理事から「支部役員の任期と改選時期について」質問があり，本部役員の任期・改選時期と同じにしてほしい旨，理事長から返答があった。

北海道支部報告(松野一彦 支部長)

1. 支部総会の予定

第 43 回支部総会

日 時：平成 21 年 8 月 29 日(土)1

場 所：札幌コンベンションセンター

総会長：藤田昌宏(名寄市立大学看護福祉学部)

内 容：シンポジウム(9:30~11:30)

第 56 回日本臨床検査医学会学術集会と共催

「免疫グロブリン検査を見直す」

司会：藤田 昌宏(名寄市立大学  
保健福祉学部)

伊藤 喜久(旭川医大臨床検査医学)

1. 免疫グロブリンとは

真船 直樹(酪農学園大学酪農学部食品

科学科)

2. 免疫グロブリン定量とその問題点

窪田 信幸(栄研化学(株)生物化学研究所)

3. IgG4 測定法の基礎検討と臨床的意義

亀子 光明(長野市民病院臨床検査科)

4. M 蛋白検出法とその問題点

山田 俊幸(自治医大臨床検査医学)

5. Free light chain 測定の臨床的意義

松田 正之(信州大学医学部第 3 内科)

6. 酵素 蛋白結合免疫グロブリン

藤田 清貴(千葉科学大学)

総会(13:00~13:30)

一般演題(13:30~16:30)

一般演題募集締切：7 月 3 日(金)正午

東北支部報告(荏原順一 支部長)

1. 支部総会の予定

第 41 回支部総会

期 日：平成 21 年 7 月 25 日(土)10 時~

場 所：コラッセふくしま

総会長：金光 敬二(福島県立医科大学

感染制御・臨床検査医学講座 教授)

内 容：一般演題，シンポジウム(一応 POCT を予定)，ランチョンセミナー，特別講演 1. 血液検査，2. 医療とコミュニケーション

事務局(連絡先)：福島県立医科大学医学部 感染制御・臨床検査医学 今福裕司

〒960-8157 福島市光が丘 1 番地

TEL: 024-547-1350, FAX: 024-548-6016

mail: yuji@fmu.ac.jp

2. 支部例会の予定

第 33 回支部例会

期 日：平成 21 年 11 月 14 日(土)

場 所：フォレスト仙台

例会長：賀来 満夫(東北大学大学院医学

研究科感染制御・検査診断学 教授)

内 容：未定

事務局(連絡先)：東北大学大学院医学研究科 感染制御・検査診断学

日本臨床検査医学会ニュース

**関東・甲信越支部報告**(高木康 総務理事, 宮地勇人  
支部長欠席のため)

1. 支部例会の予定

第66回支部例会

日 時:平成21年5月16日(土)13:15~17:00

場 所:都立駒込病院別館講堂

例会長:大林民典(都立駒込病院臨床検査科)

内 容:

1. 都立病院における病理検査染色サーベイ  
の取り組み—PAS染色, Papanicolaou染色,  
PAM染色の検討—

(1)検査技師の取り組み

演者 市川智士(都立府中病院検査科)

(2)医師の取り組み

演者 江夏一彰(都立府中病院検査科)

2. 特別講演I「MUSTag法による蛋白バイオ  
マーカーの超高感度多項目測定と簡易・  
迅速診断への応用」

演者 芝崎 太

(東京都臨床医学総合研究所)

3. 特別講演II「IgG4関連硬化性疾患」

演者 神澤輝実(駒込病院内科部長)

4. 「医療不信にどうこたえるか—検査に携わ  
るものとして考えておかなければならな  
いこと—」

演者 小島英明

(三菱化学メディエンス・病理細胞診セン  
ター, 神経研)

2. 支部総会の予定

第21回支部総会

期 日:平成21年9月26日(土)

場 所:国立大学財務経営センター

総会長:米山彰子(虎の門病院検査部長)

内 容:プログラム委員会にて検討中

3. その他の報告事項

支部幹事会にて, 診断薬企業, 衛生検査所等の企  
業で臨床検査に携わる研究者や医師を新幹事とする  
件について提案がなされ, 検討中。

**東海・北陸支部報告**(登 勉 支部長)

1. 支部例会の予定

第28回支部例会

期 日:平成21年9月6日(日)

場 所:福井市

例会長:木藤知佳志 先生(福井県立病院)

内 容:未定

2. 支部人事変更について

支部幹事から顧問への異動 浜崎豊

**中国・四国支部報告**(小出典男 支部長)

1. 支部総会の予定

第55回日本臨床検査医学会中国・四国支部総会

(会長 小出 典男)

第150回日本臨床化学会中国支部例会・総会

(会長 通山 薫)

第20回日本臨床化学会四国支部例会・総会

(会長 土井 俊夫)

第6回合同地方会

期 日:平成22年

場 所:岡山大学医学部臨床第二講義室

(〒700-8558 岡山市鹿田町二丁目5番1号)

総会長:杉浦哲朗(高知大学 教授)

内 容:未定

事務局(連絡先):高知大学臨床検査医学講座

2. 各種委員会報告

A. 編集委員会(矢富 裕 委員長)

1. トピックス, シリーズ

・熊谷委員「トピックス:注目される新しい病態・  
疾患概念と臨床検査—自己免疫疾患編—」

・村上委員「トピックス:注目される新しい病態・  
疾患概念と臨床検査—内分泌・代謝疾患—」

・「シリーズ:論文を書きましょう」

・谷口委員「心血管系に潜む病をエコーで探る」

・特別講演(退任, 新任講演):

各支部へ退任, 新任教授に関する情報提供を依頼  
したが, 2支部からしかご返信をいただけていない。

再度各支部長に問い合わせを行う。

・「トピックス:注目される新しい病態・疾患概念  
と臨床検査—循環器疾患編—」  
の企画立案を谷口委員にお願いする。

2. 投稿論文の審査について

・投稿論文における「区分」については, 編集委員  
の判断において変更を著者へ進言して構わないこと  
が確認された。

・投稿論文における「倫理に関する記述」について

は、今後重要な点となると考えられる。近々、本学会倫理委員会による答申が行われるが、それまでの間、審査依頼を行う際に以下のコメントを付すことが確認された。

「倫理委員会の承認に関する記載が必要と考えられ、その記載がない場合には審査書のチェックシートにご指摘下さい」

#### 審議事項

##### 1. 編集委員について

微生物部門の編集委員の追加が議論され、編集委員会で承認された。

理事会において審議のうえ承認された。

##### B. 臨床検査点数委員会(米山彰子 委員長)

##### 1. 平成 22 年度医療技術の評価・再評価に係る提案書提出について

以下の項目を内保連に提出した。

未収載

- ① IgG サブクラス
- ② 血管内皮機能検査

既収載

- ① 外来迅速検体検査加算(増点)
- ② 骨髄像(増点)
- ③ 生理検査に係る乳幼児加算
- ④ 心電図, 呼吸機能検査, 超音波検査に係る夜間休日加算
- ⑤ 微生物学的検査(増点)
- ⑥ 結核菌特異蛋白刺激性遊離インターフェロン $\gamma$ 測定(増点)
- ⑦ 生化学的検査(I)又は(II)に係る多項目包括規定の見直し
- ⑧ 削除項目(一部は基本診療料に含める)の提案  
キシローゼ試験(D-キシロース吸収試験),  
便ウロビリノーゲン, 尿ポルフィリン体定性,  
尿ビリルビン定量, 尿ウロビリリン定量,  
動的赤血球膜物性試験(CPC), 尿中 17-OHCS, 17-KS, 全血凝固溶解時間測定, 血清全プラスミン測定

##### C. 倫理委員会(松野一彦 担当理事)

5月15日付で評議員に対して行った「残余検体利用に関する見解の改訂案について」のアンケート調査について説明があった。

##### D. 臨床検査室医療委員会(米山彰子 担当理事)

「臨床検査室医療評価指標計算プログラムの開発」プロジェクト研究班との共同開発が昨年で終了し、学術総会にて成果を発表したことを受け、論文の執筆および今後の活動について方針を協議するため、同研究班との合同会議を4月9日に開催いたしました。

会議では、米山担当理事、渡邊研究班代表者、西堀委員長、藤原委員および研究班開発チームの高城・萩原両メンバーの出席を得て、活発な議論の末、以下の結論に至りました。

(1)開発されたプロトタイプを広く試用してもらう目的で、学会のホームページに掲載することにつき、米山担当理事を通じて理事会の了承を得る。

(2)プロジェクト研究班の成果報告は、切り口を分けて2つの論文にまとめることとし、研究班と委員会 で分担執筆する。

なお、(1)の評価指標計算プログラムのプロトタイプを学会のホームページに掲載することについて承認された。

##### E. 遺伝子委員会(村田 満 担当理事)

##### 1. ファーマコゲノミクス(PGx)検査運用指針の公表について

遺伝子委員会で検討作成したファーマコゲノミクス(PGx)検査運用指針(案)について、日本臨床検査標準化協議会(JCCLS)遺伝子関連検査標準化専門委員会のもと、関係学会、団体との調整を行った。PGx検査のヒト遺伝子診断薬として我が国で初めて保険収載されたUGT1A1遺伝子型検査の試薬が4月に発売されたことから、本学会、日本人類遺伝学会、JCCLSの3者の名前で4月に各学会(団体)websiteに公表した。

##### 2. ファーマコゲノミクス(PGx)ガイドライン共同策定委員会(予備会合)開催について

目的：ファーマコゲノミクス(PGx)検査運用指針の公開を踏まえて、治療を含めた臨床利用のためのガイドラインを関連学会共同で策定する。

予備会合

日時：2009年5月16日(土) 17:00~18:45

場所：東大医科研

参加者：鎌谷直之(日本人類遺伝学会遺伝薬理学委員会委員長)、宮地勇人(日本臨床検査医学会遺伝

子委員会委員長，日本臨床検査標準協議会；JCCSL），植田真一郎（日本臨床薬理学会ゲノム委員会委員長），谷川原祐介（日本TDM学会理事長），堤正好（オブザーバー，個人遺伝情報取扱協議会理事長）

★検討事項：会議開催の交通費支給は各参加者の所属学会から支給することが可能か各学会の理事会で確認する。

### 3. 遺伝子検査の臨床的価値の評価について

1) 臨床検査振興協議会から遺伝子検査の臨床的価値の評価調査（有用性の評価，妥当な保険点数，コスト，件数など）への協力依頼あり，委員からの意見を集計して回答した（4月）。

2) 日本臨床検査専門医会の点数委員会から内保連を通して，次期保険診療報酬改定に向けて遺伝子検査の保険点数増点を要望した（4月）。

染色体検査：現行2000点より3200点への増点  
血液細胞核酸増幅同定検査：現行2000点6ヶ月に1回の算定要件（施設基準）を月1回への変更

遺伝病的検査：現行2000点より8000点への増点など

なお，予備委員会への担当委員の交通費は学会から支払うことは承認された。

### F. 医療安全委員会（米山彰子 担当理事）

日本医学会から本学会へ依頼のあった「医療安全調査委員会への届出範囲」，「医療安全調査委員会からの捜査機関への通知範囲」に対する提言についてのアンケート調査について，メールによる書類審議を行い，各委員から出された意見をまとめ，次のとおり学会へ提出した。

日本医学会「医療安全調査委員会への届出範囲」，「医療安全調査委員会からの捜査機関への通知範囲」に対する提言についてのアンケート調査について

上記の2つの提言について，メールによる書類審議を行い，委員各位からいただいた意見を以下のようにまとめました。

基本的な考え方は，両提言ともよくまとまっていて，本学会としても了解できるものである。しかし，委員からは以下に列挙するような課題が指摘された。

#### A. 「医療安全調査委員会への届出範囲」について

(a) 医療行為が直接的に死亡に直結したのか，あるいは間接的に関与したのか，それとも死亡の一因であるのかなど判断は様々である。また，「医療安全委員会」へ届け出るかどうかは，各施設で設置している安全委員会等の考え方によっても異なってくると考えられる。したがって，各施設がそれぞれの事例が届け出に該当するかを客観的に判断できるように，判断基準を出来る限り数値化し，多くの事例を列記していただきたい。

(b) 「行った医療行為に起因する死亡とは，およそ2週間以内に発生し・・・」とあり，2週間と期限を切った根拠が示されているが，その妥当性について再度検討をすべきと考える。期限を切る必要はないのでは，と考える。

#### B. 「医療安全調査委員会からの捜査機関への通知範囲」について

(c) 基本的には「故意に近い悪質な...」という表記に関して，誰が「故意に近い悪質な」と判断するかが明確でない。捜査機関への通知を「判断」するまでのプロセスに関して，どこの誰がイニシアティブを取るのか，きちんとした審査がなされるのかという点が特に重要である。医学的知識がない者が，遺族の訴えをそのまま聞き，独自に「故意」と判断するようなことが起きうる場合は，福島大野病院事件の再来を招き，萎縮医療につながるのではないかと危惧する。

(d) 捜査機関へ通知を判断する地域の委員会は，具体的にどのような構成となるのか不明瞭。

(e) 地域の委員会が扱う事例が増加した場合，すべての事例に対処できるのか。

(f) 「標準的な医療から著しく逸脱した医療」の判断が専門家でも難しく，刑事訴追にそぐわないという理由で，この項目の削除または具体化を希望する。

(g) 同じような事例でも，施設によってシステムエラーとして扱う場合と個人の過失としてしまう場合があり，それらの判断に客観性をもたせることは難しい。また，「標準的な医療から著しく逸脱した医療」の範疇に，極めて基本的な医学知識の欠如や非常識な不注意も含まれるようにも考えられる。出来る限り具体的な事例等で判断基準を明確化して頂きたい。

(h) 1. ③の注にある「過失による医療事故死等を繰り返すリピーター医師」というのは，「2回目」

から繰り返しとなるのか。この場合、内容や質の異なる過失もあり得るが、その場合にも「2回目」ならば捜査対象になるのか？

(i) 捜査機関側が、この提言によって謙抑的になるのが疑問である。福島県立大野病院の事例で所轄署が表彰されたが、法的に無罪となった後も一切の謝罪も何もない。

なお、この意見を常任理事会で検討後に、学会からの意見として日本医学会に提出した。

### 3. 臨床検査審議会報告(宮澤 幸久 理事長)

午前中に開催された臨床検査専門医・管理医審議会にて審議された以下の事項について報告があった。

- ・研修施設認定について：学会発表がない施設は保留。
- ・受験資格：原著1編については厳守する。
- ・専門医試験：受験者数18名(基本2名+専門医16名)
- ・管理医試験：8月29日に学術集会に合わせて行う。
- ・管理医受験資格：将来的な展望に立った「管理医資格」についての検討を土屋委員長に委嘱する。

### 4. 第56回日本臨床検査医学会学術集会報告

(札幌2009/8/27~29)(松野一彦 会長)

以下の事項について報告があった。

- ・招請講演1題が演者の都合により中止となった。
- ・29日(土)はなるべく午前中で終了するスケジュールとしてので、多少タイトなスケジュールとなっている。
- ・口演350題、ポスター77題(合計427題)の応募があった。

### 5. 第57回日本臨床検査医学会学術集会報告

(東京2010/9/9~12)(宮澤幸久 会長)

学会開催に向けて種々検討されていることが報告された。

### 6. 第58回日本臨床検査医学会学術集会報告

(岡山2011/秋)(小出典男 会長)

2011年11月17~20日に、岡山コンベンションセンターで開催することが報告された。

### 7. 関連団体報告

#### 1) 日本臨床検査同学院(池田 斉 先生)

##### 1. 平成20年認定試験報告 (08/1/20 理事会以降)

###### ①二級試験

受験者 966名 合格者 610名 合格率 63.1

###### ②緊急試験

受験者 353名 合格者 311名 合格率 88.1

###### ③遺伝子分析科学認定士試験

受験者 120名 合格者 83名 合格率 69.2

###### ④一級試験

受験者 23名 合格者無し 録者総数 204名

#### 2. 第24回「緒方富雄賞」受賞式は下記にて開催した。

日時：平成20年11月7日(金) 17:00~19:00

場所：学士会館本館

受賞者名：

大久保滋夫 東京大学医学部附属病院

栢森 裕三 九州大学病院

戸塚 実 東京医科歯科大学大学院

#### 公開講演会

日時：平成20年11月7日(金) 16:00~17:00

場所：学士会館本館

講師：高橋淑郎(日本大学 商学部)

題目：「バランスト・スコアカードを用いた戦略的(病院経営)検査室運営」

司会：三村邦裕

#### 3. 部会活動(主に実技講習会)

##### ①臨床化学講習会：平成20年3月9日(日)

10:00~17:00 文京学院大学・受講者60名

##### ②微生物学講習会：平成20年5月25日(日)

9:00~17:00 順天堂大学・受講者103名

##### ③病理学講習会：平成20年6月24日(日)

8:45~17:00 慈恵医科大学・受講者43名

##### ④免疫血清学講習会：平成20年6月28日(土)

10:00~15:30 東洋公衆衛生学院・受講者38名

##### ⑤寄生虫学講習会：平成20年6月29日(日)

9:00~17:00 順天堂大学・受講者85名

##### ⑥循環生理学講習会：平成20年7月9日(日)

9:00~16:30 慈恵医科大学・受講者87名

##### ⑦東京大学臨床検査セミナーを後援で開催。

受講者70名。

##### ⑧微生物学部会では英語勉強会を月1回・年間で

日本臨床検査医学会ニュース

開催。受講者 22 名。

- ⑨病理学会では基礎英語と英文論文の講習会を年間・4 回開催。受講者 16 名。

4. 「通信」発行状況  
・現在季刊として年 4 回定期発行されている。各号には試験問題解説を掲載。

・平成 20 年・第 33 巻「通信」巻頭言の執筆者  
1～3 号 登 勉, 4～6 号 三村邦裕,  
7～9 号 高木 康, 10～12 号 横田浩充  
・医学的基礎知識「神経生理学」・「病理学」掲載。

・よもやま話は吉田 浩先生の「免疫血清検査」を掲載。

5. 関連学会・団体との会合の報告

平成 20 年 2 月 2 日(金)  
公益信託臨床検査医学研究奨励金授与式  
2 月 22 日(木)  
第 1 回検査血液学会との委員会  
3 月 3 日(月)  
認定臨床微生物検査技師制度審議会・協議会会議  
3 月 13 日(木)  
認定輸血検査技師制度審議会・協議会会議  
4 月 7 日(月)  
第 2 回検査血液学会との委員会  
6 月 27 日(金)  
日本サイトメトリー制度審議会・協議会会議  
9 月 11 日(木)  
認定輸血検査技師制度審議会・協議会  
10 月 11 日(月)  
認定臨床微生物指定講習会  
11 月 6 日(木)  
認定臨床微生物検査技師制度協議会

6. 平成 21 年事業計画

- ①理事会・各委員会の開催
- ②講演会の開催
- ③テキスト作成の準備
- ④6 月 13 日・14 日  
遺伝子分析科学認定士試験実施
- ⑤7 月 19 日  
緊急検査士試験実施
- ⑥7 月 11 日～8 月 2 日  
二級臨床検査士試験実施
- ⑦10 月, 11 月

一級臨床検査士試験の実施

⑧各関連団体との強化

7. 平成 21 年認定試験志願者報告

- ①二級試験 志願者 1075 名
- ②緊急試験 志願者 505 名
- ③遺伝子分析科学認定士試験 志願者 96 名

8. 平成 21 年部会活動(主に実技講習会)

- ①臨床化学講習会：平成 21 年 3 月 8 日(日)  
10:00～17:00 文京学院大学・受講者 44 名
- ②微生物学講習会：平成 21 年 5 月 24 日(日)  
9:00～17:00 順天堂大学・受講者 101 名
- ③循環生理学講習会：平成 21 年 6 月 7 日(日)  
9:00～16:30 虎の門病院・受講者 82 名
- ④寄生虫学講習会：平成 21 年 6 月 14 日(日)  
9:00～17:00 順天堂大学・受講者 96 名
- ⑤病理学講習会：平成 21 年 6 月 21 日(日)  
8:45～17:00 慈恵医科大学・受講者 67 名
- ⑥東京大学臨床検査セミナーを後援で開催。  
受講者 78 名。

⑦微生物学会では英語勉強会を月 1 回・年間で開催。受講者 17 名。

⑧病理学会では基礎英語と英文論文の講習会を年間・4 回開催。受講者 10 名。

⑨臨床化学英語インターネット勉強会月 1 回・年間で開催。受講者 34 名。

9. 緊急臨床検査士認定試験検討委員会を設立

5 月 15 日 19 時より 21 時学生会館で第 1 回を開催。テキスト, カリキュラム, 実施要項などを関係団体が協力して作成することとなりました。

日本臨床検査医学会 土屋達行, 横田浩充  
日本臨床検査学教育協議会 芝紀代子, 大澤 進  
日本臨床検査同学院 松尾収二, 岩谷良則

2) 日本臨床検査専門医会(佐藤尚武 先生)

1. 幹事会報告

第 1 回全国・常任幹事会：1 月 23 日(金)開催, 日本臨床検査医学会事務所  
臨床検査専門医在り方委員会が答申を出し, 解散となる。

第 2 回常任幹事会：3 月 6 日(金)開催, 日本臨床検査医学会事務所  
新しい委員会の設置を検討

2. 平成 21 年度各種セミナー報告

第 73 回教育セミナー：4 月 18 日(土)開催，慶應義塾大学医学部

担当；村田 満 教授，19 名参加

第 74 回教育セミナー：4 月 26 日(日)開催，東海大学医学部

担当；宮地 勇人 教授，18 名参加(欠席 1)

第 75 回教育セミナー：5 月 17 日(日)開催，昭和大学医学部

担当；木村 聡 准教授，20 名参加(欠席 3)

第 6 回 GLM 教育セミナー：4 月 25 日(土)開催，東京ガーデンパレス

担当；宮地 勇人 教育・研修委員長，20 名参加(欠席 2)

第 6 回 GLM 教育セミナーおよび第 74 回教育セミナーにおいて，挨拶時に臨床検査専門医試験の受験を促す。

3. 第 18 回日本臨床検査専門医会春季大会について  
6 月 13 日(土) 富山国際会議場(大会長：北島勳 教授)

4. 第 25 回日本臨床検査専門医会振興セミナーについて

7 月 17 日(金) 東京ガーデンパレス にて開催予定。

担当；佐守 友博 渉外委員長

5. 第 33 回日本臨床検査専門医会総会および講演会について

8 月 26 日(水)札幌コンベンションセンター にて開催予定。

今後の幹事会開催予定について

第 2 回全国・第 3 回常任幹事会：6 月 12 日(金)

富山国際会議場 にて開催予定

第 3 回全国・第 4 回常任幹事会：8 月 26 日(水)

札幌コンベンションセンター にて開催予定

第 5 回常任幹事会：10 月 2 日(金)

日本臨床検査医学会事務所 にて開催予定

第 6 回常任幹事会：12 月 15 日(火)

日本臨床検査医学会事務所 にて開催予定

3) 日本臨床検査標準協議会(藤橋和夫 事務局長)

平成 20 年度 NPO 法人 日本臨床検査標準協議会(JCCLS)事業報告

1. 総括

平成 20 年は JCCLS 役員改選の年度であり，新たに会長，副会長および常任理事会の委員を選任したのちに事業を推進してきた。常任理事は専門委員会とは別に常置委員会(表 1)の委員長を担当することとした。

2. JCCLS 専門委員会の活動報告

1) 遺伝子関連検査標準化専門委員会

本専門委員会は平成 18 年の秋口に経済産業省の委託事業として採択されたことを契機として，関連学会や団体から代表委員を選出して戴き，従来の遺伝子委員会を「遺伝子関連検査標準化専門委員会」と改組して，発足した。設立後，約 3 年間の経過し，大きな成果を上げることができた。

2) ISO/TC212 国内検討委員会

2008 年 6 月 2 日～4 日にカナダのバンクーバーで第 14 回総会が開催され約 20 カ国から 100 名が参加した。日本からは 6 名の参加があった。WG1～WG4 の報告と WG1, WG2 および WG3 に分けて審議があった。また，同年の 12 月 11 日～12 日にドイツのベルリンで WG1 の会議があり，ISO15189 や NWIP として遺伝子検査の審議や不確かさ等に関する審議が行われた。

3) 機械システム振興協会委託事業

本事業は「臨床検査用分析装置における自動校正システムの開発に関するフィージビリティスタディ」という名称で採択された委託事業であり，今年は 2 年目である。昨年の標準的な健診・保健指導プログラム(メタボリックシンドローム健診)の 8 項目以外で日常検査に汎用されている 22 項目について同様な検討を実施した。

4) 認証委員会

常用参照標準物質 JSCC 常用酵素(AST, ALT, CK, Alp, LD,  $\gamma$ -GT, AMY)の 7 項目) Lot.001b を昨年の 6 月に頒布を開始した。

5) その他の専門委員会

①標準採血法検討委員会

②尿検査標準化検討委員会

③臨床検査室認定委員会



日本臨床検査医学会ニュース

- 4) **日本臨床検査自動化学会**(磯部和正 先生) 2011年 第43回  
平成21年度事業予定 平成23年10月6日(木)~8日(土)  
パシフィコ横浜 矢富 裕 東京大教授
1. 会議等  
4月 2012年 第44回  
平成24年10月4日(木)~6日(土)  
パシフィコ横浜 宮島栄治 横浜市大教授
- 第1回理事会 4/3  
第1回POC推進委員会 4/3  
第1回チーム医療実践推進委員会 4/3  
第1回遺伝子・プロテオミクス技術委員会 4/3  
第1回科学技術委員会 4/4
- 7月  
茂手木賞選考会 7/16  
座長選定委員会 7/2
- 10月  
第2回理事会 10/8  
評議員会 10/8  
拡大編集委員会 10/8  
第2回遺伝子・プロテオミクス技術委員会 10/8  
第2回科学技術委員会 10/9  
第2回POC推進委員会 10/9  
第2回チーム医療実践推進委員会 10/10  
総会 10/9  
会計監査 平成21年3月  
編集委員会 平成21年3, 10月
2. 大会, 春季セミナー  
第41回大会 平成21年10月8日(木)~10日(土)  
大会長 尾崎由基男, パシフィコ横浜  
(共催展示会 10/8~10/10)  
第23回春季セミナー 平成21年4月4日(土)  
例会長 日野田裕治 山口大教授
3. 委員会活動  
技術セミナー(科学技術委員会, 遺伝子・プロテオミクス技術委員会, POC推進委員会, チーム医療実践推進委員会) 平成21年10月8日(木)
4. 刊行物  
日本臨床検査自動化学会誌 34巻1~5号  
科学技術委員会マニュアル
5. 大会開催および予定について  
2009年 第41回  
平成21年10月8日(木)~10日(土)  
パシフィコ横浜 尾崎由基男 山梨大教授  
2010年 第42回  
平成22年10月7日(木)~9日(土)  
神戸国際会議場 村田 満 慶応大教授
6. 春季セミナー開催および予定について  
2009年 第23回  
平成21年4月4日(土)  
山口 日野田裕治 山口大教授  
2010年 第24回  
平成22年4月3日(土)  
福岡 康 東天 九州大教授  
2011年 第25回  
平成23年4月9日(土)  
富山 北島 勲 富山大教授  
2012年 第26回  
平成24年4月7日(土)  
高知 杉浦哲朗 高知大教授
8. **各関連団体への推薦委員について**  
(宮澤幸久 理事長)  
各団体からの推薦依頼に対して各委員が推薦されたことが報告され, 承認された。  
1) 同学院 緊急検査認定試験検討委員会: 土屋達行先生, 横田浩充先生  
2) 臨床微生物学会の感染対策委員会委員: 満田年宏先生  
3) 尼崎医療生協病院 院内事故調査委員会に係る外部委員: 小宮山豊先生
9. **診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業の推薦について**(高木 康 理事)  
「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」中央事務局より, 今まで推薦した登録医の再確認と, それぞれの地域での臨床立会医, 臨床評価医それぞれ5名以上の登録の依頼があり, これらの確認, 登録交代, 新規の登録について要望があった。異動の委員, 退職の委員の確認が必要であることが, 理事から提言され, 各支部で検討することとなった。また, 茨城, 福岡は, 新たな推薦依頼であり, 該当する関東甲信越支部と九州支部から推薦することが確認された。なお, 登録・確認の事務局への締切は,

6月25日であることが確認された。

#### 10. 共催展示会の分配金について

(宮澤幸久 理事長)

臨床検査自動化学会の中井会長から、展示収入が減少するため、共催展示会分担金も減少する可能性があるとの連絡があったことが報告された。

#### 11. その他

日本専門医制評価・認定機構 社員総会報告(宮澤幸久 理事長)

専門医制評価・認定機構の役員人事に対して検討が行われていることが報告された。

#### 【審議事項】

#### 1. 第26回臨床検査専門医認定試験実行委員会委員について

(宮澤幸久 理事長, 村田満 試験実行委員長)

臨床検査専門医・管理医審議会承認された平成21年度試験実行委員会委員(案)について、審議があり、承認された。また、臨床生理分野についての筆記試験問題を臨床医学の選択問題として出題することも討議され承認された。

#### 2. 社員(評議員)選出, 再認定の細則について

(宮澤幸久 理事長, 高木 康 理事長)

・改定案のうち、第4章社員(評議員)選出について第9条については、

第9条

(2)以下のいずれかを満たす者。

1)過去5年間のうち、3回以上学術集会に参加し、各々で一般演題を発表し、1回以上は筆頭者として発表した者。

とすることで、承認された。

・第10条については、下記の改定案の通り承認された。

第10条

5 社員(評議員)の再任にあたっては5年間に、本法人が以下に定めた単位を50単位以上取得することを要する。なお、50単位のうち20単位は日本臨床検査医学会学術集会への出席により満たすものとする。取得単位については、資格審査委員会で審査し、再任については、理事会で承認する。

#### 3. 臨床検査管理医講習開催, 認定試験要領, 管理医規定変更, 受験資格について(高木康 理事)

第1回臨床検査管理医認定試験は、学術集会最終日の8月29日(土)に講習終了後に開催されることが報告された。

臨床検査管理医制度規定について、申請により資格取得から認定試験により資格を取得するため、受験資格等を改定し、認定試験内規をあらたに制定することについて承認された。

また、臨床検査専門医は申請により臨床検査管理医資格を取得できること、認定更新は専門医の認定更新の際に自動更新となり管理医の更新料は不要であることを付け加えることについて承認された。

#### 4. 「臨床検査管理医」英文表示について

(宮澤幸久 理事長)

審議の結果、「Qualified Clinical Laboratory Managing Physician」略語はCLMPとすることが承認された。

#### 5. 基準値設定について(高木康 理事)

医師、技師、看護師などで基準値の設定が望まれていることもあり、標準化委員会(九州大学康東天委員長)に11月末日を締め切りで提案していただき、12月の理事会に諮るようにしたい旨が報告され、審議の結果承認された。この際には、基準値の概念、SI単位の導入などについても考慮してほしいなどの要望があった。

#### 6. 国際学会発表者に対する奨励金に関する規定について(登 勉 理事)

登勉国際担当理事から国際学会発表者に対する奨励金に関する規定について説明があり、以下の点について再検討することが承認された。

・学会旅費の補助にするのか、顕彰的な奨励金とするのかを明確にする。

・理事各位に目的・概念について意見を伺う。

・国際学会終了後に顕彰するので、旅費的な運用はできないのではないか。

#### 7. 臨床検査ガイドラインについて

(宮澤幸久 理事長, 高橋伯夫 理事,  
高木康 理事)

「臨床検査ガイドライン執筆・発刊」の現状について説明があり, 以下の点で検討することが承認された。

- ・臨床検査ガイドライン, ハンドブックの発行が遅れている。
- ・当初渡辺清明前理事長の厚労省補助金で行っていたプロジェクト報告であるが, これを修正して新著として発行する際の著作権の保有者について検討する。
- ・検討結果は報告事項とする。

#### 8. CAP サーベイ事務局移管, IVD グローバルニュースについて(CGI 誓約書)(高木康 理事)

現状について説明があり, 以下の議論があった。担当の宮地勇人委員長の同席で検討することとなった。

- ・一企業にコミットした印象を受ける。
- ・CGI と綿密に連携をとって, 雑誌の発行に対処する。
- ・過去からの移行の経過を考慮して対処する必要がある。
- ・学会の編集委員会と CGI とで十分討議をする必要がある。
- ・精度管理委員会が仲介となって, 学会の意向を CGI に伝える。
- ・積極的にコミットするのも 1 手段である。学会としてサポートする必要がある。

#### 9. 同学院 緊急検査認定試験委員会について

(高木 康 理事)

委員会の現状について説明があり, 以下の討議がなされた。

①検査技師学会を卒業後して病院などに入職 2 年後のすべての技師に改訂した緊急検査士認定試験を受検させる。

②この試験を厚生労働省に認可させる。

・このような大幅な変更は望んでいない。従来どおりの自由意志での受験を行い, 試験内容の検討はしてほしいという方針。

・第二国家試験のような試験内容はよくない。

・全員に行うことは同学院が 1 団体として行うことではない。

・委員会は開催された直後であり, 委員会のこれからは見守りたい。

#### 10. その他

メールでの臨床検査科 標榜での問合せについて

・「標榜科名については, それぞれの病院で検討され, 使用している」と回答することが承認された。

・「Department of Laboratory medicine」は一般的に使用されている。

・理事会等日程(高木 康 理事)

平成 21 年度 第 3 回 : 8 月 8 日(土)正午～,

第 4 回 : 12 月 19 日(土)13 時～

平成 22 年度 理事会・定時社員総会

平成 22 年 3 月 27 日(土)正午～・15 時～

#### 閉会

高橋伯夫 副理事長から閉会の挨拶があり, 閉会となった。